

いのちの輝きを見つめる

Meiji

第148期
株主レポート

平成18年4月1日～平成19年3月31日

● 経営の基本方針

当社グループは、「食と健康」に関わるライフサイエンス事業領域を基盤とし、長年培ってきた技術や **Meiji** ブランドを最大限に活かしながらグローバルな企業として、お客様にとって価値のある商品・サービス・情報を提供してまいります。

そして、常に「おいしい・楽しい、健康、安心」を追求するとともに、健全な収益体制のもとで活力ある発展を目指し、社会への責務を果たしてまいります。

CONTENTS

| | |
|---|----|
| 株主の皆様へ | 1 |
| 事業の概況（連結） | 2 |
| 連結貸借対照表 | 6 |
| 連結損益計算書／連結キャッシュ・フロー計算書 ／連結株主資本等変動計算書 | 7 |
| 単独貸借対照表 | 8 |
| 単独損益計算書 ／単独株主資本等変動計算書 | 9 |
| 業績の推移／連結子会社 | 10 |
| 子会社レポート | 11 |
| 新製品紹介 | 12 |
| トピックス | 14 |
| 役員／従業員／主要な事業所 | 16 |
| 株式の状況 | 17 |

DASH!08（06-08中期経営計画）

- 1** **Meiji** ブランドが、「おいしい・楽しい」「健康」「安心」というイメージで、お客様から広く認知されている。
- 2** 健康事業の育成を最優先課題とし、薬品カンパニーとの連携も含めた食薬兼業の強みを活かせるビジネスモデルを確立している。
- 3** ジェネリック（後発医薬品）事業を感染症・中枢神経系領域に並ぶ柱として強化し、「スペシャリティ&ジェネリック・ファーマ」という新しいモデルを確立している。
- 4** 海外事業を大幅に強化し、国内と同等の売上を海外で稼ぎ出すための足がかりを築いている。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は3月31日をもちまして、第148期事業年度を終了いたしましたので、ここに株主レポートをお届けし、事業の概況等をご報告申し上げます。

当社グループでは、2008年度（2009年3月期）を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画「DASH!08」を推進しております。この「DASH!08」では、当社グループが2008年度に目指す姿（ビジョン）として、左記の4点を掲げ、**Meiji**ブランドの価値向上に努めることで、連結売上高4400億円、経常利益200億円の達成を目指してまいります。

菓子事業につきましては、チョコレート、ガムの両カテゴリーを中心にシェアの拡大を目指してまいります。当期はチョコレートにおける「大人向け市場」を他社に先駆けて開拓したことがシェアアップに寄与いたしました。引き続き新たな需要の掘起しに向けた商品開発を積極的に推進してまいります。また、グループ会社を含めた生産工場においては、高品質で安全・安心な商品をローコストで生産する「MPS（明治製菓生産方式）」の導入が着実に進んでおり、コストダウンの面でも大きな成果をあげつつあります。

健康事業につきましては、関連市場の伸長が続いているなかで確固たる地位を築くために、独自性のある商品の開発を推進し、食薬兼業の強みを活かした特徴あるビジネスモデルを展開してまいります。昨年秋にオープンした「ザバススポーツクラブ デルタ」（大阪府高槻市）で始めたサプリメント会員システムは、“運動と栄養の融合”を目指した当社ならではの新たなビジネスであり、今後は他のスポーツクラブへの展開を拡大してまいります。通信販売事業につきましては、従来の美容・ダイエット食品だけでなく、当社直営のチョコレートショップ「100%Chocolate Cafe.」の商品販売にも注力し、事業の拡大を図ってまいります。

医薬品事業は、引き続き営業力を強化するとともに、収益向上に向けた改革を進めてまいります。現在、開発後期にある新薬2品については、確実に開発・申請作業を進め、早期上市に努めてまいります。医療費抑制の流れを受けて市場の

伸長が期待できるジェネリック事業については、医療ニーズに沿った特徴ある製品の拡充や全MR（医薬情報担当者）を活用したプロモーション展開などにより事業基盤を整備してまいります。このように、新薬事業とジェネリック事業の拡大を図ることにより、「DASH!08」で掲げた「スペシャリティ & ジェネリック・ファーマ」を実現してまいります。

海外事業につきましては、東南アジアにおける菓子の新たな販売拠点として、昨年タイに合弁会社を設立し、また中国では、上海近郊に新設した菓子工場が本格稼働を始めるなど、着実に事業基盤を固めつつあります。今後も菓子・薬品ともに、中国、東南アジア、北米を中心とした各地域において引き続き事業展開を強化し、2008年度までに売上高に占める海外比率を20%まで高めてまいります。

当社グループは、社会と共生し永続的に発展していくために、CSR（企業の社会的責任）活動にもグループ全体で積極的に取り組んでまいります。特に、「品質」「コンプライアンス」「情報」「リスクマネジメント」「環境」「社会貢献」の6分野を重点分野と位置付けて、取組みを進めており、これからも公正で透明性のある経営を推進し、**Meiji**ブランドと企業価値の向上に努めてまいります。

今後とも一層のご愛顧ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月



代表取締役社長 佐藤尚忠

事業の概況（連結）

当期のわが国経済は、企業収益の好調さが持続し、個人消費も上向くなど緩やかな回復傾向にありましたが、原油価格や原材料価格の上昇による影響が顕在化しており、引き続き先行きが見定めにくい状況下にあります。

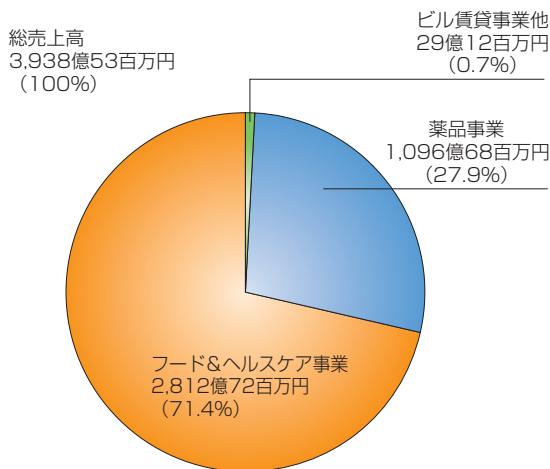
このような事業環境下、当社グループは、当期を初年度とする新中期経営計画「DASH!08」をスタートさせ、計画達成に向け、攻めに軸足を置き、菓子の新領域の開拓や「健康」「海外」「ジェネリック」の重点分野に戦略投資を進めてまいりました。

この結果、当期における連結売上高は、3,938億53百万円（前期比3.0%増）と2期連続の増収となりましたが、原材料価格高騰の影響や昨年4月に実施された薬価改定の影響を受け、当期純利益は54億80百万円（前期比36.9%減）で、期初計画通りとなりました。

当社グループの事業別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当期の連結子会社は、10ページに記載しております。

●売上高構成比（連結）



フード&ヘルスケア事業を取り巻く環境は、食品市場が頭打ちとなるなか、菓子の消費は、前年並みとなりました。一方、健康食品市場は大型素材の不在などにより、前年割れとなりました。

このような状況下、当社グループはお客様のウォンツを先取りした差別優位性のある新商品開発や戦略的なブランド別マーケティングを展開し、高カカオ商品などの大人向け市場の開拓やコラーゲン市場を牽引し、売上の拡大に努めてまいりました。

この結果、フード&ヘルスケア事業の連結売上高は過去最高の2,812億72百万円（前期比6.4%増）となりました。

主力の菓子事業につきましては、チョコレート・ガムが大幅に伸長し、全体として順調に推移しました。品目別にみると、チョコレートは、大人向け市場の開拓に成功し、大幅な増売となりました。お客様の健康志向を背景に「チョコレート効果」群が高カカオ市場を牽引、また“おいしい本格チョコレートを少しずつ”をコンセプトとする「ショコライフ」を新発売するなど、大人向け商品の充実を図っております。さらに、



主力の「ミルクチョコレート」もバレンタインを中心に、手作りチョコ需要の拡大を図り堅調に推移しました。ガムは、「キシリッシュ」がインターネットを活用したキャンペーン展開を行い、また、ボトルタイプの伸長もあり、順調に推移しました。



なお、緑茶フッ素を配合し特定保健用食品の許可を取得した「プラスF」は、引き続き市場への浸透に努めております。キャンデーでは、“噛むコラーゲン”をキャッチコピーとし



た「果汁ガミ」「ぷぶるん」を中心に好調に推移しました。スナックは、「カール」は減売となりましたが、北海道ポテトシリーズが大きく売上を伸ばしました。また、「プリングルス」も新商品投入と店頭露出の強化により大幅に伸長しました。



健康事業につきましては、画期的な新商品投入による各カテゴリーの品揃えの充実と、商品の特長を活かした積極的な営業活動を展開し、着実に事業拡大を図っております。品目別にみると、「アミノコラーゲン」は、テレビCMおよび販促活動の強化により大幅な増売となり、昨今最も注目されている飲むコラーゲン市場においてNo.1シェアを獲得しております。

「ザバス」は、プロサッカーチームの浦和レッズとトップパートナー契約を結び、認知度の向上に努めております。“もっと飲みやすく”をテーマに開発したスポーツドリンク感覚の「ザバスプロテインアクア」も発売するなど、購入層の拡大を図り大きく伸長しました。カシス商品は、カシスに関する普及活動を展開し、市場の拡大に努めております。血中で糖として吸収されない新しい甘味料GF2（ジー・エフ・ツー）は、「GF2顆粒」の通信販売を開始し、普及に努めると



ともに、3月には「GF2ココア」等の関連商品も発売するなど、粘り強く育成に取り組んでおります。また、ココアは、ブランド戦略をさらに強化したプレミアムココア「テオブロ」が前期の売上を上回ったものの、主力の「ミルクココア」が暖冬により不調だったことが影響し減売となりました。一般用医薬品は、主力の「イソジンうがい薬」はテレビCMと店頭販促の強化も図りましたが、競争激化により減売となりました。



海外事業につきましては、輸出は、アジアでのコンビニエンスストアへの取組みを強化、特に韓国・台湾・フィリピン・タイ等でチョコレートを中心に売上が大幅に伸長し、また、輸出価格の見直しを行い業績の向上に寄与しました。さらに「アミノコラーゲン」を中心に健康分野の輸出も積極的に展開しております。輸入においては、高級バレンタイン商品のブリュイエールは販売店舗増により売上を拡大しましたが、全体としては減売となりました。

■菓子事業主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ショコライフ、ブラック、ハイミルク、ホワイト、ストロベリー、ノワール、メルティーキッス、ポルテ、アーモンド、マカダミア、うすまきアーモンド、フラン、きのこの山、たけのこの里、ホルン、ガルボ、レガ、ショパン、ブッカ、アポロ、マーブル、チョコベビー、プチャソートほか）、ガム（キシリッシュほか）、キャンデー（チェルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁ガミ、ポイフル、キュン、ぷぶるん、もぎもぎフルーツ、サイコロキャラメルほか）、スナック（カール、カールスティック、北海道ポテト、ピックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）

業務用食材事業につきましては、チョコレート・ココア関連商品は、高カカオブームなど大人向け市場を的確にとらえ商品提案を実施した結果、売上は前期を大きく上回りました。果汁・果実、冷凍野菜、畜産、業務用カレーも、積極的な営業活動により好調に推移しました。

連結子会社の業績につきましては、国内では、株式会社明治フードマテリアは、主力の砂糖の価格が上昇したことにより増売となりました。また、株式会社明治スポーツプラザは、「運動と栄養の融合」を目指した「ザバススポーツクラブ デルタ」(大阪府高槻市)の会員数が順調に増加し、売上に寄与しております。海外では、明治製菓シンガポール社は、主力の「ヤンヤン」「ハローパンダ」が現地および近隣諸国で順調に伸長するとともに、「ブッカ」の製造・販売も開始し、大幅な増売となりました。米国のスタウファー・ビスケット社は、米国ウォルマートを始めとするスーパー向け売上の増加や大型のOEM受注により順調に推移しました。

■健康事業(一般用医薬品含む)・業務用食材事業主要製品
— アミノコラーゲン、ザバス、カシス-i、ローラ、パーフェクトプラス、プロテインダイエット、GF2顆粒、嗜好飲料(テオプロ、ミルクココア、ハイレモンドリンクほか)、レトルトカレー(銀座カリー、銀座ハヤシ、銀座カリー上・ビーフほか)、調理食品(JALスープ、銀座スープほか)、農産缶詰
インソジンうがい薬、インソジンのどフレッシュF、解熱鎮痛薬バイエルアスピリン、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルビックS顆粒、ミニドリンク剤活夢28ほか
業務用菓子・食品材料、砂糖、糖化製品ほか

薬品事業を取り巻く環境は、昨年4月に実施された業界平均6.7%の薬価引下げ等の医療費抑制策の浸透や研究開発費用の増大等の新薬開発を巡る競争激化などにより引き続き厳しい環境が続いております。また、農薬・動物薬においても、企業間競争の激化に加え、ポジティブリスト制度の導入など行政による規制・指導も一段と強化され、厳しい事業環境に終始しました。

このような状況下、当社グループは、主力品目を中心に積極的な営業活動を展開しましたが、連結売上高は1,096億68百万円(前期比5.0%減)となりました。

医療用医薬品は、薬価改定の影響に加え、主力の抗菌薬における市場縮小もあり、減売となりました。しかしながら、抗菌薬「メイアクト」は、市場縮小にもかかわらず、着実な学術普及活動により、シェアアップを達成しております。また、中枢神経系用薬「デプロメール」は大幅に売上を伸ばし、抗不安薬「メイラックス」も前期並みの売上を確保しました。ジェネリック品(後発医薬品)は、既存の「バンコマイシンMEEK」「ビクロックス」の好調に加え、昨年7月以降新たに「ツロブテロールテープ」など6製品を投入し、大幅に売上を伸ばしました。



農薬は、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が順調に推移し、全体としても増売となりました。また、昨年11月に除草剤「ザクサ液剤」を申請し、今後、早期発売を目指してまいります。

動物薬は、家畜用動物薬が減売となりましたが、一層のシェアアップをねらうパニオンアニマル用薬品では、犬用駆虫剤「バナメクチンチュアブルP」を発売した結果、



増売となり、全体としては前期並みの売上を確保しました。

海外事業につきましては、主力の「メイアクト」や飼料添加物「コリスチン」が減売となったものの、抗悪性腫瘍剤「ドキシソルピシン」、抗菌薬「メイセリン」、「ビタミンB12」等が好調に推移し、全体としては前期並みの売上を確保しました。

連結子会社の業績につきましては、国内では、北里薬品産業株式会社は、予防接種法改正の影響を受けた麻しんおよび風しんワクチンに加え、主力のインフルエンザワクチンの不振により、大幅な減売となりました。海外では、東南アジアのP.T.メイジ・インドネシア社およびタイ・メイジ社は、「メイアクト」「コリスチン」の販売促進活動が奏功し、大幅な増売となりました。また、スペインのテデック-メイジファルマ社も、「メイアクト」を中心に現地向け販売を強化し、増売となりました。海外連結子会社全体としては、好調に推移し過去最高の業績を達成しました。



■薬品事業主要製品

| | |
|------------|---|
| 医療用 医薬品 | 抗菌薬（メイアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシン、シプロキサソホカ）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒剤イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍剤テラルピシン、抗ウイルス化学療法剤ビクロックス、気管支拡張剤ツロブテロールテープほか）、人体用ワクチン |
| 農薬 動物薬 | 農薬（Dr.オリゼプリンス、オリゼメート、ハービー、アグレプト、ジベレリンほか）、動物薬（メイポール、メイリッチ、アストップ、マイコバスター、ポセイドン、マリンバンテル、パナメクチンチュアブルP、ウェルメイトL3ほか）、飼料添加物（コリスチン、セルラーゼほか） |

ビル賃貸事業他

大都市圏における大規模ビルの需給環境は地価上昇や企業業績の回復で顕著な改善を見せており、主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」も、新規テナントの誘致や既存テナントの増床による入居率の大幅改善、賃料の増額改定が奏功するなど好調に推移しました。



ソリッドスクエアビル

この結果、ビル賃貸事業他としての収入は29億12百万円（前期比10.7%増）となりました。

連結貸借対照表

(平成19年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 科目 | 当期 | 前期 | 科目 | 当期 | 前期 |
|---------------|----------------|----------------|------------------|----------------|----------------|
| 資産の部 | 351,514 | 348,281 | 負債の部 | 188,750 | 187,622 |
| 流動資産 | 152,457 | 153,293 | 流動負債 | 115,498 | 86,976 |
| 現金および預金 | 14,773 | 18,980 | 支払手形および買掛金 | 34,902 | 27,164 |
| 受取手形および売掛金 | 84,365 | 78,519 | 短期借入金 | 21,297 | 23,511 |
| たな卸資産 | 43,180 | 43,752 | 社債(1年以内償還) | 20,000 | — |
| 繰延税金資産 | 4,862 | 5,765 | コマーシャルペーパー | 4,500 | — |
| その他 | 5,298 | 6,304 | 未払費用 | 13,414 | 12,654 |
| 貸倒引当金 | △ 22 | △ 28 | 未払法人税等 | 1,834 | 4,170 |
| 固定資産 | 199,057 | 194,988 | 賞与引当金 | 4,278 | 4,345 |
| 有形固定資産 | 137,041 | 136,764 | 売上割戻引当金 | 5,591 | 4,713 |
| 建物および構築物 | 70,789 | 73,036 | その他 | 9,680 | 10,417 |
| 機械装置および運搬具 | 35,712 | 35,976 | 固定負債 | 73,251 | 100,645 |
| 工具器具備品 | 2,033 | 2,123 | 社債 | 20,000 | 40,000 |
| 土地 | 24,089 | 23,968 | 長期借入金 | 17,130 | 17,485 |
| 建設仮勘定 | 4,415 | 1,658 | 長期繰延税金負債 | 15,810 | 13,642 |
| 無形固定資産 | 7,260 | 6,271 | 退職給付引当金 | 16,504 | 24,765 |
| のれん | 3,484 | — | 役員退職慰労引当金 | 295 | 533 |
| 連結調整勘定 | — | 2,635 | その他 | 3,510 | 4,218 |
| その他 | 3,776 | 3,636 | 少数株主持分 | — | 2,897 |
| 投資その他の資産 | 54,754 | 51,951 | 資本の部 | — | 157,761 |
| 投資有価証券 | 46,937 | 45,064 | 資本金 | — | 28,363 |
| 長期繰延税金資産 | 291 | 284 | 資本剰余金 | — | 34,948 |
| その他 | 8,712 | 7,546 | 利益剰余金 | — | 79,595 |
| 貸倒引当金 | △ 1,186 | △ 943 | 株式等評価差額金 | — | 17,730 |
| 資産合計 | 351,514 | 348,281 | 為替換算調整勘定 | — | △ 642 |
| | | | 自己株式 | — | △ 2,233 |
| | | | 負債・少数株主持分および資本合計 | — | 348,281 |
| | | | 純資産の部 | 162,763 | — |
| | | | 株主資本 | 140,999 | — |
| | | | 資本金 | 28,363 | — |
| | | | 資本剰余金 | 34,949 | — |
| | | | 利益剰余金 | 81,173 | — |
| | | | 自己株式 | △ 3,485 | — |
| | | | 評価・換算差額等 | 18,107 | — |
| | | | その他有価証券評価差額金 | 17,245 | — |
| | | | 繰延ヘッジ損益 | 816 | — |
| | | | 為替換算調整勘定 | 44 | — |
| | | | 少数株主持分 | 3,656 | — |
| | | | 負債および純資産合計 | 351,514 | — |

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 221,935百万円 217,436百万円

2. 受取手形割引高 102百万円 76百万円

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|---------------|---------|---------|
| 売上高 | 393,853 | 382,429 |
| 売上原価 | 220,942 | 213,069 |
| 返品調整引当金繰入額 | 50 | 30 |
| 売上総利益 | 172,860 | 169,330 |
| 販売費および一般管理費 | 160,276 | 152,869 |
| 営業利益 | 12,584 | 16,460 |
| 営業外収益 | 2,822 | 2,141 |
| 受取利息・配当金 | 943 | 507 |
| 持分法による投資利益 | 112 | 131 |
| その他の営業外収益 | 1,766 | 1,501 |
| 営業外費用 | 2,778 | 2,441 |
| 支払利息 | 1,313 | 1,283 |
| その他の営業外費用 | 1,465 | 1,157 |
| 経常利益 | 12,627 | 16,160 |
| 特別利益 | 1,290 | 1,570 |
| 投資有価証券売却益 | 720 | — |
| 固定資産売却益 | 249 | 1,161 |
| 関係会社清算益 | — | 315 |
| その他の特別利益 | 320 | 93 |
| 特別損失 | 2,810 | 1,309 |
| 固定資産廃棄損 | 1,728 | 904 |
| 関係会社出資金評価損 | 466 | — |
| 関係会社株式売却損 | — | 20 |
| 関係会社の特別損失 | 614 | 384 |
| 税金等調整前当期純利益 | 11,108 | 16,422 |
| 法人税、住民税および事業税 | 2,929 | 5,105 |
| 過年度法人税等戻入額 | 605 | — |
| 法人税等調整額 | 2,832 | 2,062 |
| 少数株主利益 | 470 | 575 |
| 当期純利益 | 5,480 | 8,678 |

(注) 1株当たり当期純利益 14円39銭 22円41銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|--------------------------|----------|----------|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 17,318 | 19,513 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 18,387 | △ 18,822 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 3,138 | △ 4,687 |
| 現金および 現金同等物に係る換算差額 | △ 37 | 105 |
| 現金および 現金同等物の増減額(減少:△) | △ 4,244 | △ 3,890 |
| 現金および 現金同等物の期首残高 | 18,755 | 22,646 |
| 新規連結による現金 および現金同等物増加額 | 2 | — |
| 現金および 現金同等物の期末残高 | 14,513 | 18,755 |

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：百万円)

| | 株 主 資 本 | | | | | 評 価 ・ 換 算 差 額 等 | | | | 少数株主 持 分 | 純資産 合 計 |
|---------------------|---------|-----------|------------|---------|-------------|------------------|--------------|--------------|----------------|-------------|------------|
| | 資本金 | 資本 剰余金 | 利 益 剰余金 | 自己株式 | 株主資本 合 計 | その他有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ 損 益 | 為替換算 調整勘定 | 評価・換算 差額等合計 | | |
| 前 期 末 残 高 | 28,363 | 34,948 | 79,595 | △ 2,233 | 140,673 | 17,730 | — | △ 642 | 17,088 | 2,897 | 160,659 |
| 当 期 変 動 額 | | | | | | | | | | | |
| 利益処分による剰余金の配当 | | | △ 2,478 | | △ 2,478 | | | | | | △ 2,478 |
| 剰 余 金 の 配 当 | | | △ 1,334 | | △ 1,334 | | | | | | △ 1,334 |
| 利益処分による役員賞与金 | | | △ 91 | | △ 91 | | | | | | △ 91 |
| 当 期 純 利 益 | | | 5,480 | | 5,480 | | | | | | 5,480 |
| 自 己 株 式 の 取 得 | | | | △ 1,265 | △ 1,265 | | | | | | △ 1,265 |
| 自 己 株 式 の 処 分 | | 0 | | 13 | 13 | | | | | | 13 |
| 連結子会社の増加による剰余金増加高 | | | | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | △ 484 | 816 | 687 | 1,019 | 759 | 1,778 |
| 当 期 変 動 額 合 計 | — | 0 | 1,577 | △ 1,252 | 325 | △ 484 | 816 | 687 | 1,019 | 759 | 2,104 |
| 当 期 末 残 高 | 28,363 | 34,949 | 81,173 | △ 3,485 | 140,999 | 17,245 | 816 | 44 | 18,107 | 3,656 | 162,763 |

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独貸借対照表

(平成19年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|-----------------|----------------|----------------|
| 資産の部 | 316,981 | 316,698 |
| 流動資産 | 125,796 | 128,105 |
| 現金・預金 | 7,004 | 11,693 |
| 受取手形および売掛金 | 71,180 | 67,120 |
| 商品・製品・半製品 | 25,349 | 20,958 |
| 原材料 | 9,653 | 7,159 |
| 仕掛品 | 1,441 | 8,445 |
| 繰延税金資産 | 4,000 | 4,975 |
| その他の流動資産 | 7,174 | 7,768 |
| 貸倒引当金 | △ 8 | △ 15 |
| 固定資産 | 191,184 | 188,592 |
| 有形固定資産 | 118,131 | 120,292 |
| 建物および構築物 | 63,854 | 66,359 |
| 機械装置 | 28,464 | 29,109 |
| 車両運搬具 | 99 | 98 |
| 工具器具備品 | 1,657 | 1,731 |
| 土地 | 21,340 | 21,400 |
| 建設仮勘定 | 2,715 | 1,593 |
| 無形固定資産 | 3,390 | 3,012 |
| 投資その他の資産 | 69,662 | 65,287 |
| 投資有価証券 | 44,104 | 42,226 |
| 関係会社株式 | 15,856 | 15,855 |
| 出資金 | 511 | 457 |
| 関係会社出資金 | 5,443 | 4,163 |
| 長期貸付金 | 3,139 | 1,709 |
| その他の投資 | 1,785 | 1,818 |
| 貸倒引当金 | △ 1,178 | △ 943 |
| 資産合計 | 316,981 | 316,698 |

| 科目 | 当期 | 前期 |
|-----------------|----------------|----------------|
| 負債の部 | 168,436 | 167,417 |
| 流動負債 | 100,332 | 70,602 |
| 支払手形および買掛金 | 29,044 | 22,909 |
| 短期借入金 | 17,348 | 16,663 |
| 社債(1年以内償還) | 20,000 | — |
| コマースルベーパー | 4,500 | — |
| 未払金 | 7,195 | 4,843 |
| 未払費用 | 10,846 | 10,243 |
| 未払法人税等 | 939 | 3,198 |
| 賞与引当金 | 3,788 | 3,827 |
| 返品調整引当金 | 340 | 290 |
| 売上割戻引当金 | 5,591 | 4,713 |
| その他の流動負債 | 737 | 3,913 |
| 固定負債 | 68,104 | 96,814 |
| 社債 | 20,000 | 40,000 |
| 長期借入金 | 14,209 | 15,522 |
| 繰延税金負債 | 15,024 | 12,947 |
| 退職給付引当金 | 15,603 | 23,939 |
| 役員退職慰労引当金 | 270 | 448 |
| その他の固定負債 | 2,996 | 3,957 |
| 資本の部 | — | 149,280 |
| 資本金 | — | 28,363 |
| 資本剰余金 | — | 34,948 |
| 資本準備金 | — | 34,935 |
| その他資本剰余金 | — | 12 |
| 利益剰余金 | — | 70,908 |
| 利益準備金 | — | 7,090 |
| 任意積立金 | — | 55,851 |
| 固定資産圧縮積立金 | — | 22,851 |
| 別途積立金 | — | 33,000 |
| 当期末処分利益 | — | 7,965 |
| 株式等評価差額金 | — | 17,294 |
| 自己株式 | — | △ 2,233 |
| 負債および資本合計 | — | 316,698 |
| 純資産の部 | 148,545 | — |
| 株主資本 | 130,898 | — |
| 資本金 | 28,363 | — |
| 資本剰余金 | 34,949 | — |
| 資本準備金 | 34,935 | — |
| その他資本剰余金 | 13 | — |
| 利益剰余金 | 71,071 | — |
| 利益準備金 | 7,090 | — |
| その他利益剰余金 | 63,980 | — |
| 固定資産圧縮積立金 | 20,920 | — |
| 別途積立金 | 36,500 | — |
| 繰越利益剰余金 | 6,560 | — |
| 自己株式 | △ 3,485 | — |
| 評価・換算差額等 | 17,646 | — |
| その他有価証券評価差額金 | 16,829 | — |
| 繰延ヘッジ損益 | 816 | — |
| 負債および純資産合計 | 316,981 | — |

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 198,427百万円 196,058百万円
 2. 受取手形割引高 102百万円 76百万円
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独損益計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科目 | 当期 | 前期 | 科目 | 当期 | 前期 |
|-------------|---------|---------|---------------|-------|--------|
| 売上高 | 294,629 | 289,125 | 特別利益 | 1,035 | 1,941 |
| 売上原価 | 143,532 | 140,367 | 投資有価証券売却益 | 720 | — |
| 返品調整引当金繰入額 | 50 | 30 | 固定資産売却益 | 210 | 910 |
| 売上総利益 | 151,046 | 148,727 | 関係会社株式売却益 | — | 634 |
| 販売費および一般管理費 | 143,343 | 137,262 | 関係会社清算益 | — | 315 |
| 営業利益 | 7,703 | 11,465 | その他の特別利益 | 103 | 80 |
| 営業外収益 | 3,208 | 2,805 | 特別損失 | 2,152 | 1,059 |
| 受取利息・配当金 | 1,546 | 1,211 | 固定資産廃棄損 | 1,668 | 850 |
| 雑収入 | 1,661 | 1,594 | 関係会社出資金評価損 | 466 | — |
| 営業外費用 | 2,393 | 2,017 | その他の特別損失 | 16 | 209 |
| 支払利息 | 1,123 | 1,067 | 税引前当期純利益 | 7,401 | 13,136 |
| 雑損 | 1,269 | 949 | 法人税、住民税および事業税 | 1,130 | 3,214 |
| 経常利益 | 8,518 | 12,254 | 過年度法人税等戻入額 | 597 | — |
| | | | 法人税等調整額 | 2,806 | 2,045 |
| | | | 当期純利益 | 4,061 | 7,876 |
| | | | 前期繰越利益 | — | 1,430 |
| | | | 中間配当額 | — | 1,341 |
| | | | 当期末処分利益 | — | 7,965 |

(注) 1株当たり当期純利益

10円66銭

20円34銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独株主資本等変動計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | | | | | 評価・換算差額等 | | | | 純資産合計 | | |
|---------------------|--------|--------|----------|---------|-----------|----------|---------|--------|----------|--------|--------------|---------|-------|------------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益剰余金 | | | | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | | 評価・換算差額等合計 | |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | | | | | | | | 利益剰余金合計 |
| | | | | | 固定資産圧縮積立金 | 別途積立金 | 繰越利益剰余金 | | | | | | | | |
| 前期末残高 | 28,363 | 34,935 | 12 | 34,948 | 7,090 | 22,851 | 33,000 | 7,965 | 70,908 | △2,233 | 131,986 | 17,294 | — | 17,294 | 149,280 |
| 当期変動額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 利益処分による剰余金の配当 | | | | | | | | △2,478 | △2,478 | | △2,478 | | | | △2,478 |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | △1,334 | △1,334 | | △1,334 | | | | △1,334 |
| 利益処分による取崩収支等 | | | | | | | | △86 | △86 | | △86 | | | | △86 |
| 利益処分による固定資産圧縮積立金積立額 | | | | | | 432 | | △432 | — | | — | | | | — |
| 利益処分による固定資産圧縮積立金取崩額 | | | | | | △1,204 | | 1,204 | — | | — | | | | — |
| 固定資産圧縮積立金積立額 | | | | | | 103 | | △103 | — | | — | | | | — |
| 固定資産圧縮積立金取崩額 | | | | | | △1,262 | | 1,262 | — | | — | | | | — |
| 利益処分による別途積立金積立額 | | | | | | | 3,500 | △3,500 | — | | — | | | | — |
| 当期純利益 | | | | | | | | 4,061 | 4,061 | | 4,061 | | | | 4,061 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | | | △1,265 | △1,265 | | | | △1,265 |
| 自己株式の処分 | | | 0 | 0 | | | | | | 13 | 13 | | | | 13 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | | | | | | | △464 | 816 | 352 | 352 |
| 当期変動額合計 | — | — | 0 | 0 | — | △1,931 | 3,500 | △1,405 | 163 | △1,252 | △1,088 | △464 | 816 | 352 | △735 |
| 当期末残高 | 28,363 | 34,935 | 13 | 34,949 | 7,090 | 20,920 | 36,500 | 6,560 | 71,071 | △3,485 | 130,898 | 16,829 | 816 | 17,646 | 148,545 |

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

道南食品株式会社

道南食品株式会社の前身は、大正8年創業のビスケット製造の函館菓子製造株式会社です。その後、昭和11年に明治製菓株式会社の函館工場となり、主に「サイコロキャラメル」を中心に明治製菓の商品を製造してまいりました。昭和55年に分社・独立し、現在の道南食品株式会社となり、北海道内でも有数の歴史と伝統ある函館の菓子製造業の老舗の一つとして、明治製菓ブランド商品の製造と並行しながら、函館らしい独自の道南食品ブランド商品の開発・製造を手がけております。

現在はキャラメルとチョコレートを中心に製造しており、明治製菓ブランドのキャラメルは全て当社が製造しております。また、道南食品ブランド商品については、北海道産の素材使用にこだわっており、最近では道南産の「がごめ昆布」を使用した商品が特に注目を集めております。平成16年度には「がごめ昆布キャラメル」が、平成18年度には「がごめ昆布チョコレート豆乳プラス」が函館圏優良土産品推奨会において最優秀賞にあたる函館市長賞を、それぞれ受賞しております。

今後も明治製菓グループの一員として万全の品質管理体制で、北海道ならではの価値をお客様に提供してまいります。



主な製品



太洋食品株式会社

太洋食品株式会社は昭和30年1月に地元有志の出資により発足し、その後昭和41年10月に明治製菓株式会社のグループ会社となり、平成10年5月に100%子会社となりました。

当社は、長崎県島原市と福岡県筑後市に工場を有し、従業員数は270名で「みかん」「甘夏」「くり」「白桃」「フルーツ類」「びわ」等の缶詰、粒ドリンク、カップゼリー、養魚用飼料の製造・販売をしております。年間売上高は約25億円で、九州では、確立された自社ブランド「金太洋」を持つ唯一のメーカーであり、また、主力商品である「みかん」缶詰の生産数量は全国一を誇っております。

今後も明治製菓グループの中核企業として、「お客様に安全・安心を提供」し、喜んでいただける製品づくりに全社一丸となって取り組むとともに、「コンプライアンスの徹底」を定着させ「環境と調和」で地域社会に信頼される企業を目指してまいります。



島原工場外観



主な製品

フード&ヘルスケア

●チョコレート効果板カカオ 99%

砂糖を一切加えずカカオ分で仕上げた、カカオ分99%の究極の高カカオ分チョコレートです。カカオマスポリフェノールを1箱に1,700mg配合。



●ショコライフ

カカオ量やこだわった素材を使用した8種類の大人向き本格チョコレートです。

一口サイズで4枚入りの少量食べきりの設計。環境に優しい新開発の紙素材パッケージが特長。



●フランエクストラ 極みの森いちご

いちごを練り込んだビスケット軸を、いちごのホイップチョコとフリーズドライいちご入りのチョコでコーティングし、上質な酸味を演出しました。



●ショパン ほどけるいちご

クランチ入りのホワイトショコラカップに2層のいちごショコラを詰め、フリーズドライのいちごとブルーベリーの粒々をトッピングした贅沢なデザートチョコです。



●カカオスタイルオレンジピール

粒々のオレンジピール入りの起晶グミをビターチョコでコート。ほろ苦いオレンジピールとオレンジの甘味、そしてカカオの苦味とのコントラストが楽しめます。



●メルティーキッスなめらか焦がしミルク

雪のような口どけと焦がしミルクのまろやかなコクと香り豊かなカカオのやさしい味わいが特徴です。



●リッチストロベリーチョコ

いちご生換算約70%のフリーズドライのいちご果実をたっぷり贅沢に使用した濃厚な味わいのストロベリーチョコです。



●アーモンド香ばしクランチ

麦ごしを使った焼き菓子でくるんだアーモンドをチョコでコートし、さらに外側を細かく砕いた焼き菓子と米パフで覆いました。



●キシリッシュガム フレッシュレモン

ミントのフレッシュ感とレモンのすっきり感が楽しめる朝専用フレーバー。「朝からさわやか」なガム習慣を定着させ、キシリッシュブランドのさらなる拡大を図ります。



●キシリッシュガム ローズヒップミント

「癒しでリフレッシュ」をテーマにローズヒップとミントを組み合わせたりラックス系フレーバーを使用。甘酸っぱいおいしさが特徴です。



●果汁グミぷるん レモン味

ぷるぷるやわらかセンターグミをフルーツグミで包んだダブルの食感が味わえるグミです。味は地中海産レモン果汁を使用した爽やかなレモン味。女性に関心の高いコラーゲンを1袋に1,500mg配合。



●果汁グミぷるん アップルマンゴー&イエローマンゴー味

ぷるぷるやわらかセンターグミをフルーツグミで包んだダブル食感グミ。2種類のマンゴー果汁をブレンドし、奥深い味わいしました。1袋にコラーゲンを1,500mg配合。



●カシス - i 黒酢

当社研究素材であるカシスポリフェノールの機能に黒酢を加えた機能性飲料。特有のポリフェノールを豊富に含むカシスの栄養を十分に活かした商品です。



●カシス - i A50

注目の成分カシスアントシアニンを2粒に50mg配合。『カシスの明治製菓』がこだわった良質なニュージーランド産カシスを原料に使用。パソコン作業、運転、読書などの時間が長い方に。

薬局・薬店で求められます。



●ザバス アクアホエイプロテイン100

水のようにゴクゴクと飲める次世代プロテイン。理想の筋肉を目指す方のためのプロテインです。体内での吸収率の高いホエイプロテインを100%使用し、7種類のビタミンB群、ビタミンC、クエン酸を配合しました。



●プロテインダイエット

おいしい・健康・手軽を追求した食事代替ダイエット商品。歴史あるプロテイン技術に明治のおいしさ・特許成分をプラスし、続けやすいダイエット食品を実現しました。



●テオプロココア

カカオ分63%の深いコクが楽しめ、贅沢な味わいが実感できる大人のココアです。健康にうれしいポリフェノールを3倍、テオブロミンを2倍、食物繊維を2倍配合しました（いずれも当社ミルクココア比）。



●アミノコラーゲン

吸収に優れたフィッシュコラーゲンの「味・におい」を改良して、さらにお客様から喜ばれる商品に生まれ変わりました。ドリンクタイプもローズヒップ風味でリニューアル。新成分ヒアルロン酸を配合し、美しくいたい女性を応援します。



●銀座チキンカレー

コンセプトは洋食屋が作ったインド仕立てのカレー。野菜が溶け込んだ芳醇な洋食ソースがベースの、奥行きのある味わい深いカレーです。



●まるごと野菜 完熟トマトの麦入りリゾット

たっぷりの野菜をベースに、麦や玄米を使い低カロリーに仕上げました。1袋で1食分の、腹もちの良い完結食です。



●ローラ (全12種類)

水なしでいつでもどこでも食べられるお手軽サプリメント。お菓子で培ったおいしさの技術を活かし、毎日続けられるお菓子感覚のチュアブルサプリメントです。



●銀座スープ (3種のきのこの泡立ちポタージュ)

業界初のふんわり泡立つ新しい粉末スープの誕生。高級レストランで人気の泡で仕立てたスープを、お湯を注ぐだけで実現。まるでカプチーノのようなスープです。



●GF2顆粒

おいしくて使いやすい、砂糖から生まれた夢の糖です。GF2顆粒は、有機酸として吸収されるため、糖として血中に吸収されません。お料理にも使えて毎日のお食事がぐっと楽しくなります（通信販売限定商品）。



100% Chocolate Cafe. 通販開始

平成16年12月に本社ビル1階にオープンした「100%Chocolate Cafe.」は、チョコレートコンセプトとしたカフェで、チョコレートの新しい“おいしさ”と“楽しさ”を発信し、これまで多くのお客様にチョコレートの奥深さについて知っていただき、支持されてまいりました。

平成18年12月には、「贈るチョコレート」専門店という新たなコンセプトで、より多くのお客様にチョコレートの“おいしさ”と“楽しさ”をお届けするために、インターネット上でのショップをオープンいたしました。このショップでは、「100%Chocolate Cafe.」の人気メニューである「56種類のチョコレート」や、毎日違った味を楽しめる「365日のチョコレート」だけでなく、インターネット限定として、タブレットチョコを自由に用いて「甘い」メッセージとして贈れる「タブレット」、自分だけのオリジナルチョコレートが楽しめる「手作り用チョコレート」、マグカップなどの「オリジナルカフェアイテム」なども販売しております。

100% Chocolate Cafe. ホームページ <http://www.choco-cafe.jp>



56種類のチョコレート



タブレット

当社が浦和レッズのトップパートナーに！ ユニホーム胸元にZAVASのロゴ。



山田暢久選手

当社は、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）所属「浦和レッドダイヤモンズ」（浦和レッズ）と、トップパートナー契約を締結いたしました。

この契約により、当社スポーツサプリメントブランドである「ZAVAS」（ザバス）のロゴが、2007年シーズンから選手ユニホームの胸部分に掲出されるほか、商品提供や栄養サポートなど、浦和レッズを様々な角度からバックアップしてまいります。

浦和レッズは昨シーズン、リーグ優勝と天皇杯優勝の2冠を達成するなど、近年めざましい躍進を果たしております。今回のパートナーシップを通じ、ZAVASブランドのさらなる普及とイメージアップを図るだけでなく、浦和レッズを始めとした全国のサッカーファン、さらにはスポーツを愛する全ての方々の、心と身体の元気を応援してまいりたいと考えております。



阿部勇樹選手

動物薬「パナメクチンチュアブルP」発売

本年3月1日、犬糸状虫症予防・消化管内線虫駆除剤「パナメクチンチュアブルP」を発売いたしました。

「パナメクチンチュアブルP」はイベルメクチンとピランテルパモ酸塩の配合剤で、必要期間中、毎月1回の投与で犬フィラリア症予防と消化管内線虫駆除が同時に可能となります。また、当社独自の技術により鳥ササミ風味のソフトなチュアブルタイプに仕上げ、犬の嗜好性を高めることにより、投与時の犬と飼い主双方のストレスや負担の軽減を図っています。

当社動物薬事業では、従来販売している犬フィラリア症予防剤「パナメクチン錠S」（イベルメクチン製剤）の新たなラインアップとして本剤を加え、犬フィラリア予防製品を拡充させるとともに、コンパニオンアニマル用医薬品分野の一層の充実を図ってまいります。



【製品の特長】

1. 必要期間中、毎月1回の投与で犬フィラリア症を予防、同時に消化管内線虫（犬回虫、犬鉤虫）も駆除。
2. 高い信頼と実績の駆虫剤“イベルメクチン”と“ピランテルパモ酸塩”を配合
3. 国内で開発、生産される製剤
4. 犬の嗜好性を高めたソフトなチュアブル製剤



ご報告

～株主優待 寄贈先よりお礼状が届きました～

当社では、昨年度より株主優待制度を一部変更し、株主様のご意志により、優待品を福祉団体へご寄贈いただくこともできることといたしました。ご賛同いただきました株主様宛に、寄贈先より大変たくさんの感謝のお言葉を頂戴いたしましたので、その一部をご紹介しますことができます。

昨年度は、特定非営利活動法人日本NPOセンター様を通じ、障がいを持つ児童を中心とした支援団体、全国48団体へ寄贈させていただきました。

今年度も、当社のCSR（企業の社会的責任）活動の一環として寄贈選択制度を継続実施いたします。

- <昨年度実績>
- ご寄贈にご賛同いただきました株主様：1,470名
 - 株主様からご寄贈いただきました金額：410万円
- （なお、当社からも同額寄贈させていただいております。）



役員

(平成19年6月27日現在)

●取締役および監査役

| | | | | | | |
|---|-------|------|----|----|----|----|
| ※ | 代表取締役 | 取締役 | 佐高 | 藤橋 | 尚昭 | 忠男 |
| ※ | 代表取締役 | 取締役 | 高長 | 橋崎 | 正正 | 喜彦 |
| ※ | 専任取締役 | 執行役員 | 松塚 | 尾西 | 政治 | 彦信 |
| ※ | 専任取締役 | 執行役員 | 塚松 | 長西 | 宏祥 | 幸史 |
| ※ | 専任取締役 | 執行役員 | 森溝 | 口嶋 | 英祥 | 史彦 |
| ※ | 専任取締役 | 執行役員 | 矢工 | 藤井 | 利知 | 敏正 |
| ※ | 専任取締役 | 執行役員 | 森狩 | 野口 | 夏秀 | 秀一 |
| ※ | 専任取締役 | 執行役員 | 山 | 健 | 健 | 一 |
| | 常任監査役 | 監査役 | | | | |
| | 常任監査役 | 監査役 | | | | |
| | 監査役 | 監査役 | | | | |
| | 監査役 | 監査役 | | | | |

(注) 上記※印の取締役は執行役員を兼任しております。

●執行役員

| | | |
|--------|----|----|
| 常務執行役員 | 真壁 | 理 |
| 常務執行役員 | 高橋 | 秀樹 |
| 常務執行役員 | 佐藤 | 豊美 |
| 執行役員 | 入江 | 榮一 |
| 執行役員 | 横路 | 文雄 |
| 執行役員 | 中村 | 論紀 |
| 執行役員 | 小河 | 定昭 |
| 執行役員 | 中野 | 良治 |
| 執行役員 | 中森 | 慎二 |
| 執行役員 | 荒松 | 幾雄 |
| 執行役員 | 小田 | 春造 |
| 執行役員 | 浅田 | 隆仁 |
| 執行役員 | 内田 | 容央 |
| 執行役員 | 下田 | 統晴 |
| 執行役員 | 木下 | 明男 |
| 執行役員 | 上坂 | 文保 |
| 執行役員 | 古川 | |

従業員

(平成19年3月31日現在)

| 従業員数(前期比) | 平均年齢 | 平均勤続年数 |
|--------------|-------|--------|
| 3,904名(73名減) | 40.3歳 | 17.2年 |

(注) 従業員数には当社から他社への出向者が含まれており、臨時従業員は含まれておりません。

主要な事業所

(平成19年3月31日現在)

本社

東京都中央区京橋二丁目4番16号

営業所

フード&ヘルスカ7 / 北海道統括支店(札幌)、東北統括支店(仙台)、首都圏統括支店(東京)、北関東統括支店(宇都宮)、中部統括支店(名古屋)、関西統括支店(大阪)、中四国統括支店(広島)、九州統括支店(福岡)、健康事業北海道支店(札幌)、健康事業東北支店(仙台)、健康事業首都圏支店(東京)、健康事業北関東支店(宇都宮)、健康事業中部支店(名古屋)、健康事業関西支店(大阪)、健康事業中四国支店(広島)、健康事業九州支店(福岡)

薬品 / 薬品札幌支店、薬品仙台支店、薬品東京支店、薬品横浜支店、薬品関東支店(さいたま)、薬品名古屋支店、薬品京都支店、薬品大阪支店、薬品中国支店(広島)、薬品四国支店(高松)、薬品福岡支店、農業札幌支店ほか5農薬支店、動薬北日本支店(仙台)ほか3動薬支店

工場

フード&ヘルスカ7 / 関東工場(坂戸)、東海工場(藤枝)、大阪工場(高槻)
薬品 / 北上工場、小田原工場、岐阜工場(北方)

研究所

フード&ヘルスカ7 / 食料健康総合研究所(坂戸)
薬品 / 微生物資源研究所(小田原)、医薬総合研究所(横浜)、生物産業研究所(横浜)

海外事務所

ロンドン事務所、北京事務所

(注) () 内は、当該事業所が所在する都・市・町名を示しております。

株式の状況

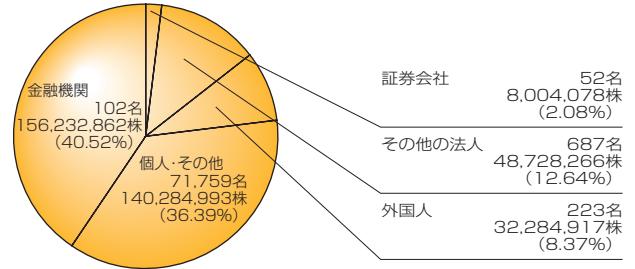
(平成19年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 796,104,000株
- 発行済株式の総数 385,535,116株
- 株主数 72,823名 (前期末に比し,1,662名増)
- 大株主 (上位10名)

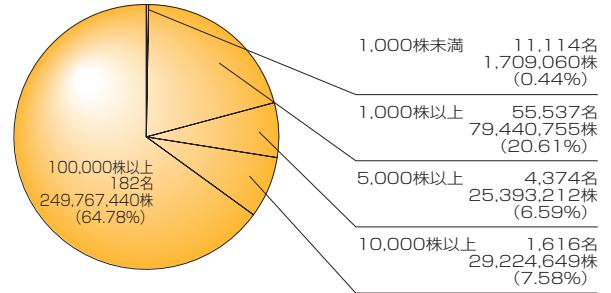
| 株主名 | 持株数 (出資比率) | |
|-------------------------|------------|--------|
| | 千株 | % |
| 株式会社みずほ銀行 | 18,861 | (4.89) |
| 第一生命保険相互会社 | 16,163 | (4.19) |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口 | 15,804 | (4.10) |
| 日本生命保険相互会社 | 14,707 | (3.81) |
| 富国生命保険相互会社 | 10,001 | (2.59) |
| 明治乳業株式会社 | 9,003 | (2.34) |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口 | 7,351 | (1.91) |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 6,804 | (1.77) |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 6,512 | (1.69) |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 5,481 | (1.42) |

(注) 当社は自己株式を実質で6,364千株 (出資比率1.65%) 保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

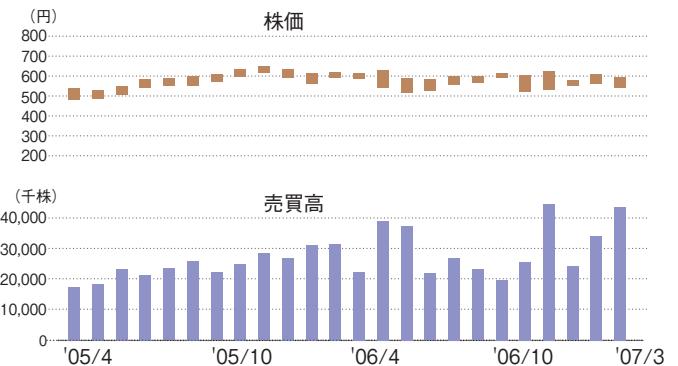
所有者別



持株数別



株価等の推移



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

基準日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
※別途定める場合は、予め公告します。

定時株主総会 6月下旬

公告方法 日本経済新聞に記載
なお、会社法第440条第4項の規定により決算公告は行っておりません。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部

(電話お問い合わせ
郵便物送付先) 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店
野村證券株式会社全国本支店

**実質株主の諸届
に関する特例** 届出の内容によって証券会社等を経由
すべき場合がありますので、あらかじめお取引の証券会社等にご確認ください。

単元株式数 1,000株

**単元未満株式の買取
および買増請求場所** 株主名簿管理人事務取扱場所および同取次所
(証券保管振替機関に預託されている単元未満株式については、お取引の証券会社等にお申し出ください。)

《お知らせ》

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができます。お手続には振込指定書のご提出が必要となりますので、株主名簿管理人に用紙をご請求ください。
- 当社は、単元未満株式の買増制度を導入しております。単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、その単元未満株式と併せて1単元(1,000株)となる数の株式の買増しを請求することができます。制度の内容および手続の詳細につきましては株主名簿管理人にご照会ください。

■株主様へのご優待

3月31日現在の1,000株以上所有の株主様に対し、以下の基準で当社製品を**10月末頃**に贈呈いたします。また、昨年度より株主様のご意志により、優待品を株主様へのご送付に代えて福祉団体へご寄贈いただくこともできることといたしました。

- 1,000株以上：2,000円相当
- 3,000株以上：3,500円相当
- 5,000株以上：5,000円相当



●製品は一例です(3,500円相当)。

明治製菓株式会社

〈お問い合わせ先〉

〒104-8002

東京都中央区京橋二丁目4番16号

電話 (03) 3272-6511(代表)

 ホームページ (<http://www.meiji.co.jp>)


環境に配慮した「大豆油インキ」
を使用しています。


古紙配合率100%再生紙